

会報

富山県公立小中学校教頭会

No 111

令和7年9月1日発行

〒930-0018

富山市千歳町1-5-1

富山県教育記念館内

富山県公立小中学校教頭会

発行者 会長 吉川 浩二

編集者 代表 結城 和美

印刷 株式会社チューエツ



東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会を前に

副会長 山越 智子

連日暑く、雨の降らない日の続く今年の夏は、毎日のニュースも猛暑の話題が続きます。この会報が皆様のお手元に届く九月頃は、少しは暑さも落ち着いているのだろうか、心配にもなります。

さて、先日二つの全国大会・研修会へのオンライン参加の機会を得ました。「全公教要請担当者研修会」では、毎年七月頃に実施されている、「全公教の調査」の結果からの考察に関わる話等を視聴しました。「副校長・教頭としてやりがいを感じる」として「教職員の育成」「職場で教職員の相談に応じること」「地域との連携」「児童及び生徒指導上の課題への対応」等が上位に上がることでした。確かにこれらがうまくいくように対処して、みんなが安堵し、笑顔になったときの「ほっ」とする気持ちにそれが当たると実感します。一方で、「蛍光灯が切れています」「鳥が死んでいます」等の報告を受け、何とかすることを求められるのも、教頭先生方です。『ね。』とお話は続き、「教頭先生がすべきことはどこまでかを整理し、例えば、若手の先生へのケアや地域との連携に関わる仕事等にもっと時間と力を使うことができたらよいですね。」と話が結ばれました。これまで同様、学校の全教職員とよく連携し、そして、全国的に配置の範囲を広げていた

大茨城大会」を通して、印象に残った二つのことをお伝えします。「学校運営協議会」の話題では、「学校は地域にもっと弱みを見せてよい」「地域は学校からのリクエストを待っている」と、現在その委員であり、元校長先生だった方がお話しされました。もう一つは「脱！後回し」これは、分科会の指導助言者として参加しておられた、現校長先生のお言葉です。そして、「いつも教頭先生方は、自分のことは後回しにしていますか？たまには自分のことを先にすること、みんなにとってもよい結果がうまれることもあるのですよ。」と続けられました。

十月三十日(木)、三十一日(金)に行われる「東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会富山大会」が近付いてきました。この会は、多くの教頭先生方との意見交流を通して、他県の方の状況を知り、自身の視野を広めるよい機会となることと思えます。教頭先生方におかれましては、大変ご多用の中での参加となりませんが、皆様のご協力をどうかよろしくお願い致します。

令和七年度 役員紹介

富山県公立小中学校教頭会役員

- 会長 吉川 浩二 (富・堀川南小)
- 副会長 山越 智子 (魚・道下小)
- 副会長 結城 和美 (中・高野小)
- 副会長 牧田 隆 (富・南川小)
- 副会長 山崎 民子 (高・五位小)
- 副会長 西村 敬洋 (高・五位小)
- 副会長 島瀬 武夫 (高・五位小)
- 副会長 坂田 和穂 (高・五位小)
- 監事 結城 和美 (中・高野小)
- 監事 河田 和美 (中・高野小)
- 監事 山吉 信夫 (高・五位小)
- 監事 澤村 信天 (高・五位小)
- 監事 出口 隆子 (高・五位小)
- 監事 山本 泰 (高・五位小)
- 監事 有澤 祐子 (高・五位小)
- 監事 日吉 竜滋 (高・五位小)
- 監事 林 百代 (高・五位小)
- 監事 石田 雅人 (高・五位小)

全国公立学校教頭会役員

- 副会長 吉川 浩二 (富・堀川南小)
- 理事 山崎 民子 (高・五位小)
- 理事 牧田 隆 (富・南川小)
- 理事 山本 泰 (高・五位小)
- 理事 山越 智子 (魚・道下小)
- 理事 西村 敬洋 (高・五位小)
- 理事 山崎 民子 (高・五位小)
- 理事 島瀬 武夫 (高・五位小)
- 理事 坂田 和穂 (高・五位小)
- 理事 結城 和美 (中・高野小)
- 理事 河田 和美 (中・高野小)
- 理事 山吉 信夫 (高・五位小)
- 理事 澤村 信天 (高・五位小)
- 理事 出口 隆子 (高・五位小)
- 理事 山本 泰 (高・五位小)
- 理事 有澤 祐子 (高・五位小)
- 理事 日吉 竜滋 (高・五位小)
- 理事 林 百代 (高・五位小)
- 理事 石田 雅人 (高・五位小)

東海北陸地区公立学校教頭会役員

- 会長 吉川 浩二 (富・堀川南小)
- 副会長 山越 智子 (魚・道下小)
- 副会長 結城 和美 (中・高野小)
- 副会長 牧田 隆 (富・南川小)
- 副会長 山崎 民子 (高・五位小)
- 副会長 西村 敬洋 (高・五位小)
- 副会長 島瀬 武夫 (高・五位小)
- 副会長 坂田 和穂 (高・五位小)
- 副会長 結城 和美 (中・高野小)
- 副会長 河田 和美 (中・高野小)
- 副会長 山吉 信夫 (高・五位小)
- 副会長 澤村 信天 (高・五位小)
- 副会長 出口 隆子 (高・五位小)
- 副会長 山本 泰 (高・五位小)
- 副会長 有澤 祐子 (高・五位小)
- 副会長 日吉 竜滋 (高・五位小)
- 副会長 林 百代 (高・五位小)
- 副会長 石田 雅人 (高・五位小)

- 研究部長 山越 智子 (魚・道下小)
- 研究部長 山本 泰 (高・五位小)
- 研究部長 西村 敬洋 (高・五位小)
- 研究部長 山崎 民子 (高・五位小)
- 研究部長 島瀬 武夫 (高・五位小)
- 研究部長 坂田 和穂 (高・五位小)
- 研究部長 結城 和美 (中・高野小)
- 研究部長 河田 和美 (中・高野小)
- 研究部長 山吉 信夫 (高・五位小)
- 研究部長 澤村 信天 (高・五位小)
- 研究部長 出口 隆子 (高・五位小)
- 研究部長 山本 泰 (高・五位小)
- 研究部長 有澤 祐子 (高・五位小)
- 研究部長 日吉 竜滋 (高・五位小)
- 研究部長 林 百代 (高・五位小)
- 研究部長 石田 雅人 (高・五位小)

全国公立学校教頭会「茨城大会」に参加して

射・大門小学校 中野 千佐登

大会主題「未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり」三年目の今年には水戸市で開催された。「郷土を愛し協働して未来にはばたく人財を育む活力ある学校づくりの推進」がサブテーマであった。前日に発生したカムチャツカ半島での地震の影響で開催が危ぶまれたが、東日本大震災や能登半島地震からの復興、「郷土」を思い、よき「人財」を育みながら団結して未来を切り拓こうという教頭としての絆を感じた大会ともなった。

分科会で、射水市は提言者として「教育環境整備に関する課題」をテーマに、魅力あるコミュニティスクールの推進について発表した。学校にとつて地域を生かすことは大切であると皆十分認識しているものの、人材の高齢化や教頭の負担等、共通の悩みがあり、コミュニティスクールを持続可能な取組にするための協議が熱心に行われた。

一日目の記念講演で、講師石井竜也氏は、「世の中は政治がつくるものではなく、一つ一つの学校がつくっていくもの。そして目標に向かって協働できる人財を育むためには、今の時代ならではの寄り添い方が大切。力強く引つ張るのではなく、「一人一人がなくてはならない存在」であることを伝えながら、子供の心の奥にある情熱を引き出していく。そのため教師は、教師としての情熱を、品性を備えた言動でもって、子供たちや保護者地域に伝えていってほしい」とおっしゃった。

下の写真は、水戸葵陵高校書道部の書道パフォーマンス作品である。東日本大震災支援ソング『花は咲く』に合わせ、持てる全てで注いで揮毫した作品には、一人一人の個性を輝かせながら、協働し、困難に負けず、未来を切り拓こうとする、若く力強い勢いを感じた。



下・ひばり野小学校 水島 真寿美

初日は、茨城県出身アーティスト・石井竜也氏を講師に迎え、「仲間と共に未来へはばたく人財育成のために」と題した記念講演が行われた。石井氏は、郷土・茨城への愛情や、米米（こめこめ）の中心メンバーとしての経験から、個性豊かな仲間と協働することの大切さを語られた。「多様な個性をまとめようとすると、まとまりきらない。自由に発言させると、逆にはばらばらになることもある」とした上で、「だからこそ、最初に大きなゴール（下流）を設定し、そこに向かって全員が自然に流れていけるような『大きな川』自由な雰囲気のある組織を作ることが大切だ」と述べられた。また、「品性は言葉では教えられず、教師の振る舞いが問われる」という言葉には、教育の本質を感じた。

続くシンポジウムでは、教育の本質を感じた。ポジストを迎え、「郷土を愛し、協働して未来にはばたく人財を育む活力ある学校づくりの推進」をテーマに公開討論が行われた。討論では、「組織マネジメントの重要性が強調された。中でも、「リーダーシップを発揮するには、まず己を知り、自律すること」「人材の適切な採用、配置、人を選ぶ技術が鍵を握る」「組織として成果を出すには、ピープルマネジメントが重要であり、対話による相互理解が良好な関係を生む」などを学んだ。コーディネーターの放送大学小林祐紀准教授の「個別最適な教員研修が学校の活力を生む」という言葉も心に残った。「個別最適な学び・協働的な学び」は子供たちだけではなく、教員にも不可欠であり、それをコーディネートするのも教頭の重要な役割であると再認識する機会となった。

二日目は、「子供の発達に関する課題」をテーマにした分科会に参加した。ここでは、チームとして子供を支援する教頭の役割について、二校からの発言発表があった。具体的には、「ブロックチーム担任制」「校内支援教室の設置」「教科担任制の導入」等の実践報告や協議が行われた。そこでは、「教職員間の共通理解の促進」「保護者との連携」「地域・外部機関との連携、係づくり」「環境整備」「地域・外部機関との連携、人材確保」等、具体的なマネジメントについて多くの学びを得ることができた。本大会を通して、教頭としての役割の重さと重要性を改めて実感した。また、全国の各学校の取組について情報交換することで、自身の視野を広げる貴重な機会にもなった。指導助言の斉藤茂太氏の名言「他人に花を持たせよう。自分の花の香りが残る」と心に留め、今回の学びを大切に、今後も教頭として誠実に職務を果たしていきたい。自らの在り方を常にアップデートしていきたい。

地域の協力に感謝

中・立山北部小学校 大島 孝明

四月から本校で教務主任から教頭となり、これまでに以上、地域の方の協力の大きさを痛感している。四月の教育後援会総会で、教育後援会長は、「後援会のお金を、学校の備品等に使うだけではなく、子供たちが笑顔になり、心に残ることも使ってほしい」という思いを伝えてくださった。そこで、その思いを受け、今年度は十一月の学習発表会にマジシャンを呼び、マジックショーを開くことにした。五月には、学校近くの田んぼで、五年生の子供たちが田植えを体験させていただいた。この日のために苗の用意だけではなく、田起こしや代掻き等、たくさん準備をしていただいた。当日は子供たちが苗を植えやすいように朝から「ころがし」で印を付け、苗を植える前には、植え方のコツを丁寧に教えてくださった。

六月には二年生と四年生、特別支援学級の子供たちが、落花生の種植を体験させてもらった。わざわざ学校近くの畑を提供してくださり、マルチシートをかぶせた立派な畝まで準備してくださった。また、六月中旬のプール清掃では、消防団の方がポンプ車のホースで勢いよく水をかけ、最後の仕上げをしてくださった。

七月には、全校除草の際に多くの方が参加して下さり、暑い中夏休み前のグラウンドや畑の草をすっかりきれいにしてくださった。これらのことに参加された方にお礼を言うと、皆さん口をそろえてこう言う。「なあん、いいがやちや。うちらは、子供の笑顔さえ見れたらいいが。」

本当にありがたいことである。学校が、地域の方に支えられているということを改めて実感する。この後も公民館と一緒にススポーツ交流会や、PTA主催のメモリアル花火の打ち上げ等、多くのことが予定されている。これらの協力を当たり前と思うのではなく、感謝の気持ちをもってしっかりと連絡調整をしていきたい。また、子供たちにも地域の方に感謝をして、自分たちが頑張っている姿や、成長した姿を見せることが大切であることを、しっかりと伝えていきたい。

東から

研修のあゆみ

富山県小学校教頭会の取組

富・堀川小学校 篠田 美希子

富山県小学校教頭会では、「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」を研究主題とし、次の六つの研究部会を構成して、会員全六十九名がいずれかの部会に所属して共同研究を行っている。

- ・第一部会「教育課程に関する課題」
- ・第二部会「子供の発達に関する課題」
- ・第三部会「教育環境整備に関する課題」
- ・第四部会「組織・運営に関する課題」
- ・第五部会「教職員の専門性に関する課題」
- ・第六部会「教頭の職務に関する課題」

各部会での研究の推進にあたり、「自立・協働・創造」をキーワードとして部会ごとの課題解明に取り組んでいる。その際、課題解明に向けた研究の視点を設け、その視点に対する提案について部員全体で協議を進めている。各学校での具体的な取組や効果的だった手立て、今後の見通し等、情報共有や対話を通して、教頭として資質能力の向上を目指している。このような研修を充実したものとするため、研修内容に合わせてオンラインや参集での研修、書面開催等を効果的に設定し、開催している。

「魅力ある学校」とは、子供にとってだけではなく、保護者や地域から信頼される学校、教職員にとって働きがいのある学校でもありと考える。その実現に向けて、今後も研究における成果と課題改善点、新たな視点等を明らかにし、共に学び合う姿勢を大切にしながら、チーム学校の中心として学校現場を取り巻く諸課題に主体的に取り組みでいきたい。

南砺市小・義務教育学校教頭会の取組

南・南砺つばき学舎(前期課程) 石田 雅人

南砺市小・義務教育学校教頭会は、市内小・義務教育学校の教頭九名で組織し、「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」を研究主題とし、研修を進めている。

各回の研修会では、担当を決め、勤務校の現状や課題への対応等についてまとめた資料を用いて工夫して取り組んでいることや特色のある活動等について情報共有している。同じ南砺市内の学校であつても、学校の規模や地域性等に違いがあるため、悩みを口にしたたり、実態に応じた対応方法を学んだり、異なる視点からアイデアを出し合ったりする場となっており、その成果が全員の財産として蓄積されている。

また、小・中・義務教育学校の教頭十七名が合同で研修する機会も設けている。今年度は、校内研修における協議会のもち方、温かい学級運営に必要な土台づくりや一緒に考え高め合える教師のチームづくり等について学んだ。これらを各校において実践するにあたり、「横のつながり」が強いものであることは、心強い限りである。

このような取組の成果を最大限に発揮していくために、今後も教頭会のネットワークを生かして研鑽を深め、魅力ある学校づくりに向かって活動を進めていきたいと考えている。

あから西

ふるさと教育の拠点「きずなの森」

水・十三中学校 田中 久年

本校は、氷見市の最南端に位置し、豊かな自然と歴史的な文化に恵まれた地域にあります。神代布勢、仏生寺三地区からなり、総称して十三谷地区と呼ばれています。本会報第一〇九号の学校紹介には、校区にある氷見市立湖南小学校が掲載されており、子供たちは地域のつながりの中で、自ら考え試行錯誤しながら、周りの友達と協力して自分らしく歩んでいると紹介されています。その拠点は「きずなの森」だと考えられます。

「きずなの森」を中心とした活動は、湖南小学校では平成十四年から、十三中学校では平成十五年から始まりました。地域のボランティアの方々と一緒に遊歩道づくりや階段づくりに始まり、現在も全校生徒で行う整備活動として根付いています。「きずなの森」には、竹に覆われたドーム型の大きな空間があり、その場所を利用して吹奏楽部の演奏や合唱等の竹ドームコンサートが行われていた頃もありました。このコンサートには、地域住民も多数来場しており、自分が暮らす地域の自然や歴史等の素晴らしさを改めて実感するとともに、地域への愛着と誇りを強くもつきっかけとなっています。また、活動内容によっては卒業学年や部活動単位等、様々な形態での活動を通して「自己有用感」や「自己存在感」を高めることにつながっています。何より二十年以上の活動を通して、十三中学校区に「きずなの森」という共通言語が生まれました。



小中一体型校舎を生かした小中連携の学び

富・山田中学校 柴 千春

本校は、富山市の中心部から約二十キロ離れた豊かな自然環境の中にあります。平成十九年に改築された校舎は小中一体型であり、児童生徒が安心して思い切り学校生活を送れるよう、いろいろな工夫がなされています。この校舎の利を生かし、中学校全校生徒二十三名と小規模校ながら、小学生四十一名と協働して学び、異年齢の集団で支え合って互いを思いやる心の育成に努めています。

本校では、小中連携教育推進委員会を設置し、様々な教育活動に取り組んでいます。特に、小中の教職員が協力し、「山田の子ども」を育てる力量を高めるため、小中合同での研修に力を入れています。子供たちの主体的・対話的で深い学びを実現し、確かな学力が身に付くよう、「九年間の学び」をいかに充実させるか、小中合同での授業改善に努めています。また、中学校から小学校へ乗り入れ授業を行ったり、学習規律やアクションプランの共有を図ったりして、子供たちが自ら学ぶ力を育てています。

さらに、集会や運動会、学習発表会、避難訓練スキーマ学習等の合同行事を充実させ、子供たちの成長につなげています。一学期には、「第一回小中合同集会」が小学校児童会企画で行われました。「楽しい活動に協力しながら取り組み、もっと仲を深めよう」というねらいのもと、小学一年生から中学三年生までが一つのグループになって、伝言ジェスチャーゲームや連想ゲームを楽しみました。「みんなまで協力して答えを考えることができよかったです」、「久しぶりの集会で小学生と仲が深まった」との振り返りの声が続々と上がり、九月に実施される保・小・中合同運動会に向けて、さらに絆を深めていこうと意識を高めています。本校の強みである少人数と小中一体型校舎による機動力を生かして、今年度の合い言葉「一人一人が考える旅を楽しもう」のもと、「豊かな心、高い知性、たくましい体」を兼ねそなえた山中生としてさらに前進してほしいと願っています。



学校活動の紹介

地域への誇りと愛着の心を育む「ふるさと教育」

高・高岡西部中学校 石黒 均

私たち中学校区の三小学校が昨年統合し、高岡西部小学校になりました。旧高岡西高等学校校地内に増改築が完工する令和九年に中学校が移転することで、校舎一体型の小中一貫校となります。そんな小中一貫教育の柱となっているのが「ふるさと教育」です。

地域をよく知り、地域の課題と向き合う活動として、ふるさとの歴史ある街並みを描く校内写生大会や、伝統産業や商工業の色彩豊かな「十四歳の挑戦」等が挙げられます。生徒が地域の様々な人々の思いに触れ、観光、防災、人口等、地域の課題について考える機会となっています。

また、弥栄節講習会や御印祭、公民館祭り等のふるさとの行事への参加、御印祭や地下道の清掃ボランティア活動、地域のスパーとのフードドライブ活動、地元企業と生徒会による商品開発・販売活動等、地域の協力を得て、多くの生徒が感動を味わえる体験活動を実施しています。

小中連携では、両校の教員が一堂に会する合同研修会、合唱練習や陸上競技練習等の乗り入れ授業、高岡市の小中学校で実施するものづくり・デザイン科、生徒会と児童会の連携、授業見学や部活動体験等の交流活動、両PTAの連携によるアウトメディア週間等、小中九年間を見通した系統性のある指導が行われています。

地域の豊富な教育資源に支えられながら、地域の将来を担うたくましい子供たちを育成しようと、校舎移転を目前に小中連携がより活発になっていて、両校の先生方から日々新しい活動のアイデアが生まれています。



学校活動の紹介

スケールメリットを生かして

朝・あさひ野小学校 坂口 薫

本校の校区は、山崎・南保・大家庄の三地区からなり、広範囲である。小規模校であるが、農村地帯で、保護者や地区住民の協力を得ながら、子供たちは豊かな自然の中で伸び伸びと活動している。

本校の教育活動の特色の一つとして、「ふるさと科」の学習がある。これは、「ふるさと朝日を愛し、地域の発展に貢献することができると子供を育てる」ことを目標に、学校・家庭・地域が一体となり、地域の人・自然・文化を生かした学習を通してふるさとを愛する教育の推進を図るものである。三地区の三つの小学校が統合される前から、毎年、学校と保護者・地域が両輪となって進めてきた伝統的な学習であり、様々な体験活動を行ってきた。地域との連携は密接で、「朝日町地域学校協働本部」が学校と連携して講師や施設との交渉を行うほか、保護者や地域からの積極的な支えもあり、円滑に学習につなげられている。四月の、地域のガイドグループの解説による「春の四重奏」の見学に始まり、野菜や植物等の植え付け体験、地元発祥のスポーツであるピッチボール交流、鍛冶屋や和紙づくりといった地域の伝統文化の見学や体験等、年間を通して多角的・多面的にふるさとについて学んでいる。

また、今年度は文部科学省のリーディングスクールDX事業指定校となった。昨年度の協力校としての実績を基に、今年度はさらに、どの教科においても探究することを楽しみ、子供が自分で「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学びのサイクルを回したり、考えを深めたりできるような授業を目指している。そして少人数であるからこそ、より一層教師は子供一人一人の進捗を把握しながら、学習のねらいに沿った学びとなるよう助言を行うことができている。

小規模校のよさを生かし、保護者や地区住民の協力を得ながら、様々な学校活動に取り組んできた。今後もスケールメリットを生かして、子供たちの豊かな学びを育んでいきたい。





津市ならではの
のキャリア教
育、ふるさと



教育の推進」に向け、学校と地域
がパートナーになって、地域
の力を 生徒の『地力』に！ 生徒
の力を 地域の『活力』に！の
ローガンのもと、地域の教育資源
の積極的活用を図りながら、「西
中サポート活動」と「放課後いき
いき活動」に取り組みます。

今年度は、
職員室前に地
域学校協働活
動専用のホワ
イトボードを
設置し、校区
コミュニティ
センターから
のお知らせ
や、実際に活動した際の様子を掲
示しています。七月に入ると、八
月上旬に市内で行われる「じゃん
とこい魚津まつり」に関するお知
らせが数多く掲示されました。こ
のまつりでは、魚津市の伝統芸能
でもある「せり込み蝶六踊り」を、
市内の中学生が踊りながら街流
しをすることが伝統になっていま
す。七月十五日（火）には、地域
学校協働活動の一環として、地元
「せり込み蝶六保存会」の皆さん



を講師に招き、
「せり込み蝶
六踊り」を教
えていただき
ました。生徒
たちは真剣な
表情で、扇子
を手に踊りの
型を学び、リ
ズムに合わせて体を動かしていま
した。また、「せり込み蝶六踊
り」を通じて、その背景にある歴
史を学んだり、地域の誇りを感じ
たりしながら、魚津市の魅力を再
発見し、自らがその担い手である
ことを実感するよい機会になつた
と思います。



今後、部活動の地域展開がさら
に進むことが予想され、生徒の放
課後の過ごし方も多様化すると思
われます。平日の放課後に、生徒
が地域に出向いて、ボランティア
や興味のある活動に取り組む、地
域貢献・自己実現につながる活動
を少しでも実践できるよう、安全
対策等に配慮しながら、地域学校
協働活動を推進していくことが今
後の課題です。

魚・西部中学校 廣川 平



砺波市立般若中学校
吉田 千恵



本校は、昭和二十二年に、般若村他三ヶ村組合立
般若中学校として開校し、今年七十八周年を迎えます。
本年度の生徒数は一〇八名と小規模校で、生徒は学年
を問わず、教師も含めてとても仲がよく、温かい雰
囲気で学習や生徒会活動、部活動に取り組んでいます。
本校のある般若地区は、奈良時代には「伊加流伎野」
と呼ばれ、この地域を拠点としていた豪族が、東大寺
の大仏建立のために多くの米や荘園を寄進したという
記録があり、長い歴史があります。現在は、校下に般
若、東般若、梅檀野、梅檀山の四地区があり、地域と
の結び付きが強いことが本校の特徴です。生徒たちは
登下校時には地域の方に進んで挨拶をしたり、地域行
事に積極的に参加したりしています。そして、地区で
行われる「花しようぶまつり」「夢の平コスモスウォッ
チング」等の県内外から多くの人が訪れるイベントに
ボランティアとして参加し、イベントを盛り上げてい
ます。まさに、生徒にとっては、地域全体が学び舎と
言えるのではないかと思います。
校名の「般若」は、先述した奈良時代の記録にす
でにあります。「般若」というと、能面を思い浮かべ、
少し怖いイメージがあると思います。しかし、「般若」は、
仏教用語で、「智慧（物事をありのままに把握し、真
理を見極める力）」を意味します。まさに学び舎にふ
さわしい校名です。今、この学び舎で学ぶ生徒たちが、
「般若」の名のもと、地域の歴史と文化に誇りを持ち、
未来を担う大人に成長することを願っています。

全国公立学校教頭会 令和七年度定期総会に参加して

代議員 牧田 隆
富・蛭川小学校

全国公立学校教頭会の令和七年度定期総会が、六月六日(金)に、全公教役員四十四名、各単位教頭会代議員五十二名が参集・オンラインで参加し、東京の都市センターホテルで開催された。午前の部では、令和六年度の「諸活動報告」「諸会計報告」があり、続いて、午後の部では、令和七年度の「活動方針」「年間活動予定表」「一般会計予算」等について、提案・協議が行われ、承認された。議案二では、「令和七年度文教施策・文教関連立法並びに予算措置等に関する要請」について次のとおり決議し、要請することとなった。

- 1 義務教育の質を高めるための公財政教育支出の充実及び、義務教育費国庫負担制度による国庫負担率二分の一を実現すること。
- 2 教員採用試験の倍率低下に見られる、若者の教員離れをくい止めるための施策を講じること。
- 3 いわゆる「教員不足」による、教員の未配置をなくすための施策を講じること。
- 4 「学校・教師が担う業務に係る3分類」を保護者・地域に周知するための働きかけを継続的に行い、学校の働き方改革への理解を深める施策を講じること。

- 5 副校長・教頭の厳しい勤務実態を踏まえ、その学校マネジメントに係る業務を専門的に支援するための人材として、副校長・教頭マネジメント支員の配置を拡充していくこと。
- 6 次期学習指導要領改訂を見据え、新しい時代に必要となる資質・能力を見極め、子どもたちにとってカリキュラムオーバーロードとならないよう指導内容及び指導時数を精選すること。
- 7 中教審答申で示された、教職員定数の改善と学びの専門職である教師にふさわしい処遇を実現するための施策を確実に実現すること。
- 8 防災対策・酷暑対策・ICT機器の活用等を含めた教育施設・設備等の環境整備を進めること。

国会(全公教)が、政策提言能力を備えた職能研修団体であり、約二万七千名の会員の総意に基づいて行われるからこそ、重みのある要請になるのだと感じた。
令和六年度全国公立学校教頭会の役員・専門部員への感謝状贈呈が行われ、私事であるが、昨年度全公教の研究部員を務めていたので感謝状を頂いた。研修では、令和六年度の「全国公立学校教頭会の調査の結果報告」があり、副校長・教頭のやりがいとして、「教職員の人材育成」「教職員の人間関係」「児童・

生徒指導」が挙げられていた。昨年度は「保護者・PTAとの連携」が挙げられていたが、校内のことに教頭として直接関わることによりやりがいを感ぜられていくことが分かった。

また、講演では、東京大学大学院教授 勝野正章氏による「全国公立学校教頭会の調査結果の分析・考察と今後の要請活動について」を拝聴した。管理職として、「職場の心理的な安全」「働きやすい職場環境」「教師の働きがいを高めしていく」ということが心に刻まれた。

東海・北陸地区公立学校教頭会 第一回役員・理事会報告

高・五位小学校 山崎 民子

六月二十日(金)、富山県教育記念館で第一回役員・理事会が開催された。本年度役員承認の後、吉川浩二会長(富山)の挨拶、議事の審議となった。議事の審議では、令和六年度会務報告と会計報告、令和七年度事業計画案と予算案について提案があり、承認となった。次に、富山大会の宣言・決议案が承認された後、富山大会の概要説明を行った。五月に開催された事務担当者連絡協議会で審議された会則や旅費規程の変更等に関する審議も行われ、全会一致で承認された。
議事終了後に、各県との情報交換を行い、稲垣潤一副会長(愛知)の閉会の挨拶で役員・理事会を終了した。

令和七年度十月以降の研修・研究大会のお知らせ

- ◆第五十回 東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会
富山県公立小中学校教頭会研究大会
・期日 十月三十日(木)・三十一日(金)
・場所 富山市芸術文化ホール 他
- ◆東海北陸地区教頭会第三回理事会
・期日 一月二十三日(金)
・場所 愛知県名古屋市中区
- ◆全国公立学校教頭会中央研修大会
・期日 二月十三日(金)
※ オンライン開催
- ◆第四回 富山県代表教頭研修会
・期日 二月十日(火)
・場所 富山県教育記念館

編集後記

先日、大阪・関西万博を訪れました。最先端の技術や、多様な生き方・価値観に触れる中で、これからの社会を生きていく子供たちには、「自分で考え、学びを調整し、粘り強く取り組む力」がますます重要になると、改めて実感しました。
しかし、そのような力は一朝一夕に身に付くものではありません。日々のささやかなつづきや、ふとした表情・行動の変化の中で、少しずつ育まれていくものです。そうした子供たちの内面に丁寧に寄り添い、励まし、見守っている教員に、心から敬意を表します。目には見えにくい成長こそが何よりも宝物。その思いを大切に、これからの教員や子供たちと共に歩んでいきたいという気持ちを強く抱きました。
最後になりましたが、ご多用の中、原稿をご執筆いただきました教頭先生方に、心より感謝申し上げます。

編集委員

- 結城 和美
- 河田 美保
- 山吉 信夫
- 澤村 梢
- 出口 隆子